

## 通常総会の報告

特定非営利活動法人 集合住宅維持管理機構の2023年度通常総会が3月23日に開催されました。2022年度の事業活動および収支報告、ならびに2023年度の事業計画と予算そして役員変更の提案が、すべて賛成多数で承認されました。また、梶浦恒男前理事長、渡部嗣道前理事が退任されました。ご承知のとおり、集合住宅維持管理機構は管理組合の要請によって誕生した技術者集団ですが、1984年の創設の立役者こそ、当時大阪市立大学生活科学部助教授であった梶浦先生でした。それ以来、梶浦先生は長きにわたってわれわれの活動を見守り、2007年以降は理事長として共に歩んでくださいました。

4月からは、近野正男新理事長以下、齊藤広子理事（横浜市立大学教授）、松下大輔理事（大阪公立大学教授）、横田隆司理事（大阪大学教授）、櫻井純子監事（公益財団法人 大阪みどりのトラスト協会事務局長）を迎え、新しい体制でスタートします。

### 理事長就任のごあいさつ

4月から梶浦前理事長の後任として、伝統ある機構の理事長を引き継ぎました。マンション研究の第一人者として全国的に有名だった梶浦さんと違って、私は無名とっていい人間ですので驚かれた方も多かったと思われます。そこで、私の自己紹介を兼ねて、歩いてきた足跡を少し紹介することにします。

生まれは秋田で、大学は東北大学建築学科で、梶浦さんは同じ研究室の3年先輩です。1965年に卒業して大阪府庁に就職し35年間数多くの部署で役人生活し、退職後も4つの会社でいろいろの仕事をしてきた人間で、研究者の梶浦さんとは異なった「いわば実務派」です。

1960年代の高度成長期で、全国的に住宅開発や都市開発が盛んになり、日本最初の本格的ニュータウンとして有名になった千里ニュータウンの開発も着手されました。私も是非参画したいと縁もゆかりもない大阪府庁の採用試験を受け、念願かなって千里・泉北ニュータウンのマスタープラン作成から建設、管理まで17年間没頭でき、まさに私の熱き青春時代でした。その頃の思い出深いのは、大阪市立大学の住田先生やCOM計画研究所の高田所長の要請を受けてコーポラティブハウスの為の用地を泉北ニュータウンで提供する事業を企画し実施出来た事です。18のプロジェクトが成功し大きな話題になりました。私自身もコーポ住宅に入居し、その時のチーフ設計者が当時合同設計にいた機構の堤主任でした、

その後、建築指導課で建築主事として建築確認検査、営繕課で府立体育館の設計、門真市に出向し木賃密集地域の整備、府営住宅の建て替えや管理等々様々な経験をしてきました。

また、30代の初めに、大阪府庁の国内留学制度に応募して、京都大学の異研究室の研究生として1年間在籍し、後に千葉大の教授になった延藤さん、大阪教育大の教授になった岸本さん、京都教育大の教授の関川さんなど同年代の若い研究者と交流でき、その後の私の人生に大きな影響を受けました。その後も建築学会近畿支部の住宅部会の幹事を長年務め、梶浦さんや住田先生はじめ関西の住宅研究の多くの先生達との交流も私の大きな財産になりました。京都市立芸術大学で2年間非常勤講師として若い学生達に接することが出来たのもいい経験でした。

マンション問題は私の長年の関心事で機構のセミナーなどは欠かさず参加して来ました。マンション学会の関西支部の幹事も長く務め、マンション管理士の第一回の試験にも合格し、17年前に梶浦さんの要請をうけて機構の理事になり、有能な技術者集団のさまざま活躍に接してきました。

今回、理事長という大役を引き受けることになり、私でいいのかと戸惑いもありますが、主任達や事務局職員の協力を得ながら、機構の良き伝統を生かしながらも、転換期を迎えている機構の改革に、私なりの経験や知見を生かして、微力ながら貢献出来ればと願っています。



近野正男